

平良港 国際クルーズ拠点整備事業

国土交通省 港湾局

事業概要

【事業の目的】

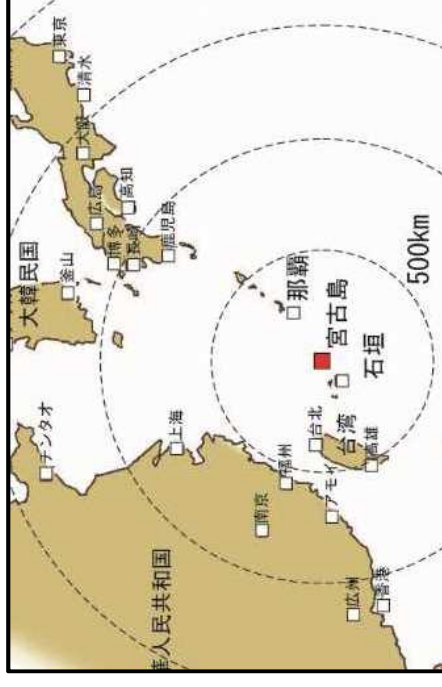
国際クルーズ拠点の形成に伴う東アジアを周遊するクルーズ船の寄港増加に対応するため、平良港漲水地区において、港湾施設の整備を行う。

【事業の概要】

- 整備施設：岸壁（水深10m）、泊地（水深10m）、
臨港道路、旅客上屋
- 事業期間：平成29年度～平成31年度
- 事業費：92億円（うち、港湾整備事業費：85億円）

《整備スケジュール》

港名	地区名	区分	施設名	H29	H30	H31
平良港	漲水	直轄	岸壁(水深10m)			
		直轄	泊地(水深10m)			
		直轄	臨港道路			
		民間	旅客上屋			



平良港の概況（クルーズ関連）

平良港の所在する宮古島は前浜ビーチなどの自然景観に恵まれ、平成27年に開通した宮古島と伊良部島を結ぶ伊良部大橋の効果もあって、観光地としての注目度が高まっている。
 平良港は、クルーズ市場の成長著しい台湾などからの3泊4日のショートクルーズなどの寄港地として最適な位置にあり、平成28年のクルーズ船寄港隻数が前年の13隻から86隻に大幅に増加している。

平良港背後における主要な観光地

(中心地から8.5km)

いらぶ 伊良部島

伊良部大橋
渡口の浜
珊瑚群

(中心地から8.9km)

まえばま 前浜ビーチ

(中心地から9.3km)

宮古島海中公園

(中心地から4.6km)

砂山ビーチ

(中心地から4.0km)

宮古島市熱帯植物園

平良港
～すべて60分圏内～

(中心地から23.1km)

ひがしへんなさき 東平安名崎

(中心地から11.7km)

うえのドイツ文化村

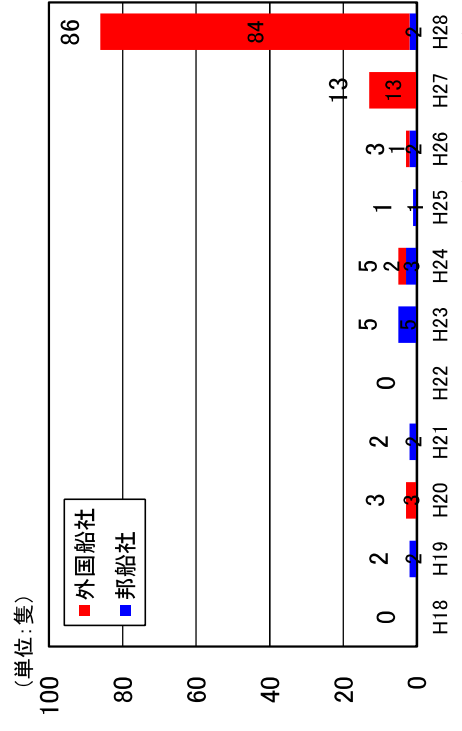
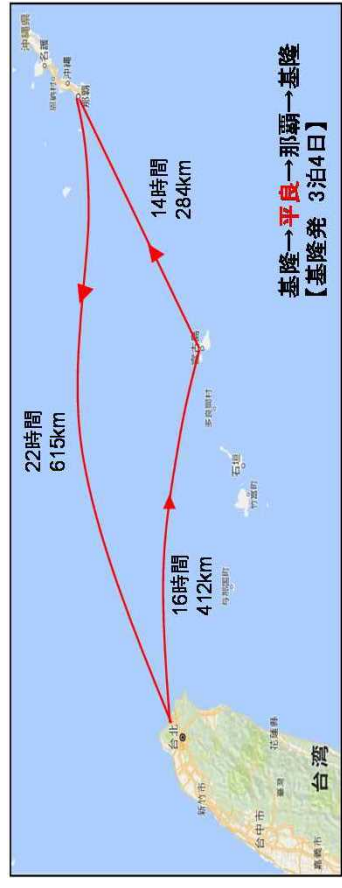
(中心地から9.6km)

くりまじま 采間島大橋

平良港のクルーズ船寄港状況



【台湾発着航路の例】
 スーパースター・アークエアリス ※/10 平良寄港
 総トン数 51,309GT 全長 230m 喫水 7.0m



宮古島の観光入込客数69.3万人(うち外国人12.6万人)(H28年)

資料:宮古島市提供資料

【平良港】官民連携国際クルーズ拠点形成計画書（目論見）の概要

応募者	沖縄県宮古島市、カーニバル・コーポレーション&PLC(カーニバル社)
国際クルーズ拠点形成の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○中国発着クルーズの主要拠点寄港地 ○将来的には下地島飛行場の活用等を視野にフライ&クルーズによる発着港への発展
寄港回数目標	<ul style="list-style-type: none"> 運用開始年(H32年): 250回 目標年(H38年): 310回

■ 漲水地区

- カーニバル社が、中国発着クルーズの拠点として優先的に使用予定。
- ◆ 漲水地区岸壁 (14万トン級(計画))
- ◆ 旅客ターミナルビル<カーニバル社>
- カーニバル社が快適なCIQ手続が受けられる旅客ターミナルビルを整備



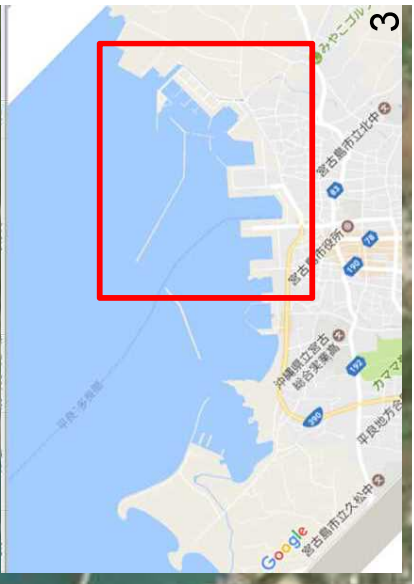
マジステティック・プリンセス
(14万トン級、全長380m、乗客定員3,460人)



■ 下崎地区
◆ 下崎地区岸壁(既設)

■ 漲水地区
◆ 漲水地区岸壁(整備中)

旅客施設(新設)

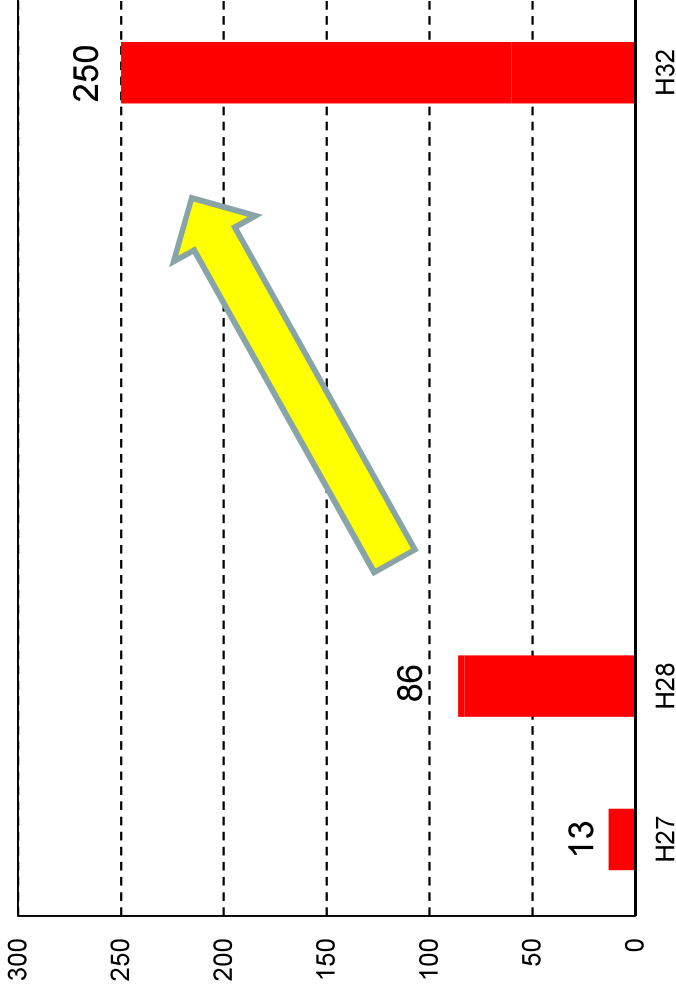


平良港の課題と事業の必要性・緊急性

- 平良港では、国際クルーズ拠点として、平成32年に、年間250隻、最大14万トン級を最大とするクルーズ船の寄港を目標としている。
- 現在クルーズ船が着岸する下崎地区の岸壁、整備中の漲水地区の岸壁については、それぞれ砂・砂利・スクラップ、RORO船に対応する施設であり、クルーズ船の利用できる日数が制限される。
- また、下崎地区については、5万トン級のクルーズ船までしか受け入れができないことから、大型クルーズ船の利用に対応出来ない状況にある。

平良港のクルーズ船寄港隻数

(単位:隻)



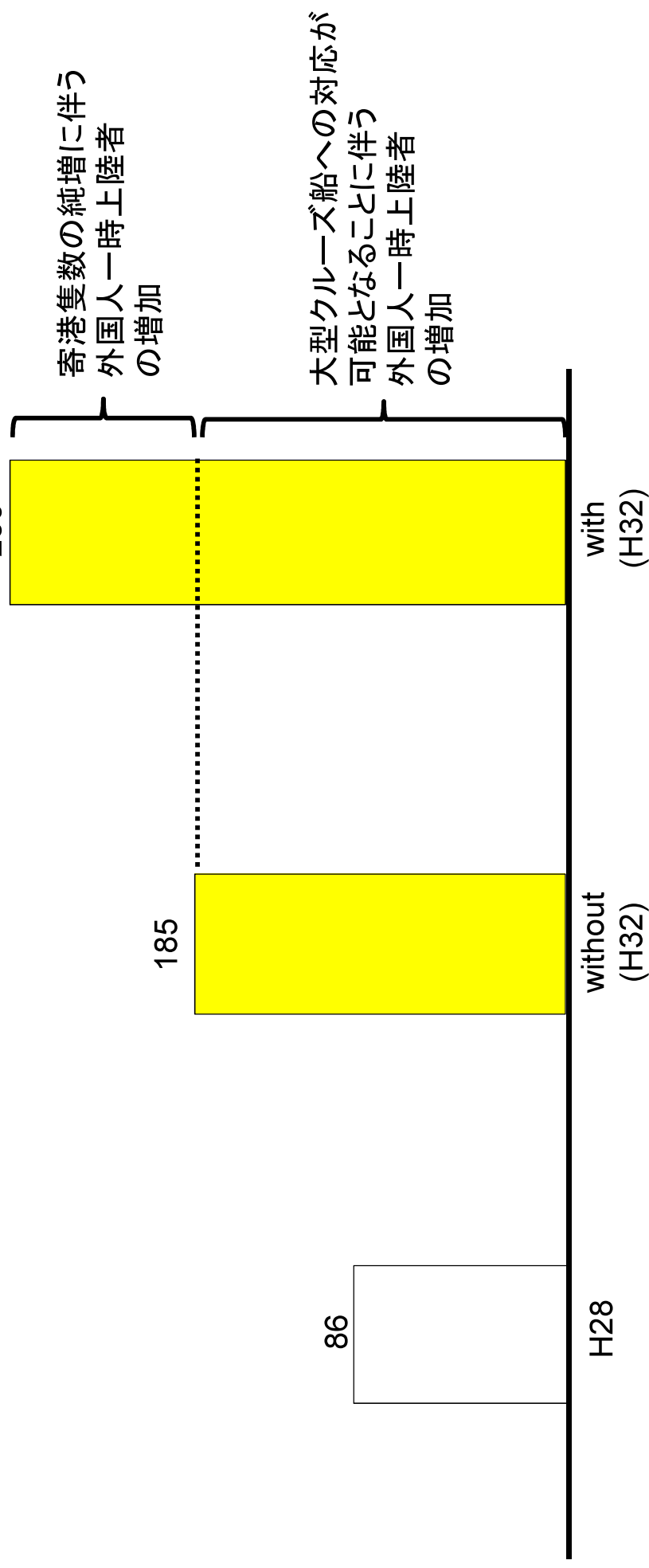
クルーズ船受入岸壁の配置状況



費用便益分析におけるクルーズ需要等の設定

- ・ 事業を実施する場合（with時）の年間寄港隻数は、各船社からのヒアリング結果をもとに設定。
- ・ 事業を実施しない場合（without時）の年間寄港隻数は、既存施設で受け入れが可能な最大隻数を設定。
- ・ 上記を元に、事業実施による寄港隻数の純増及び大型クルーズ船への対応が可能となることに伴う外国人一時上陸者の増分を算出し、外国人一時上陸者の増加に伴う外航クルーズ船の入港による国際観光純収入の増加を便益として計上する。

＜年間寄港隻数＞



寄港隻数純増に伴う訪日外国人一時上陸者の増分

: 140,400人/年

大型クルーズ船への対応が可能となることに伴う訪日外国人一時上陸者の増分

: 79,920人/年

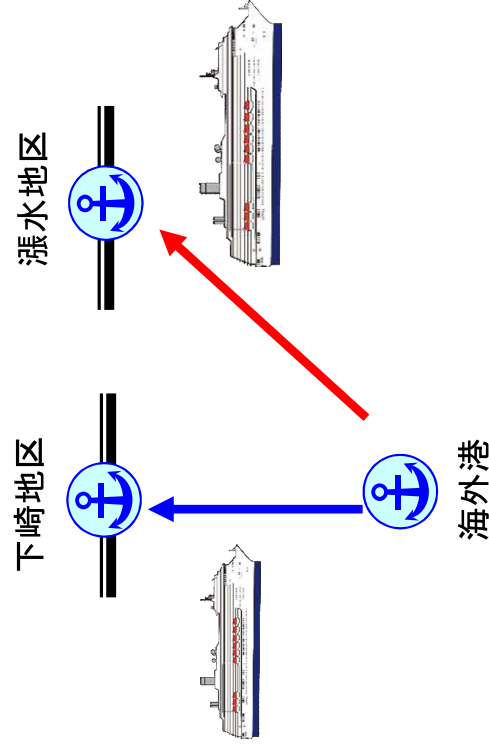
※外航クルーズ船の入港による国際観光純収入の増加便益(円/年)＝外国人一時上陸者数の増分×1人あたり観光消費額(20,000円)
 (「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」による)

本事業における便益

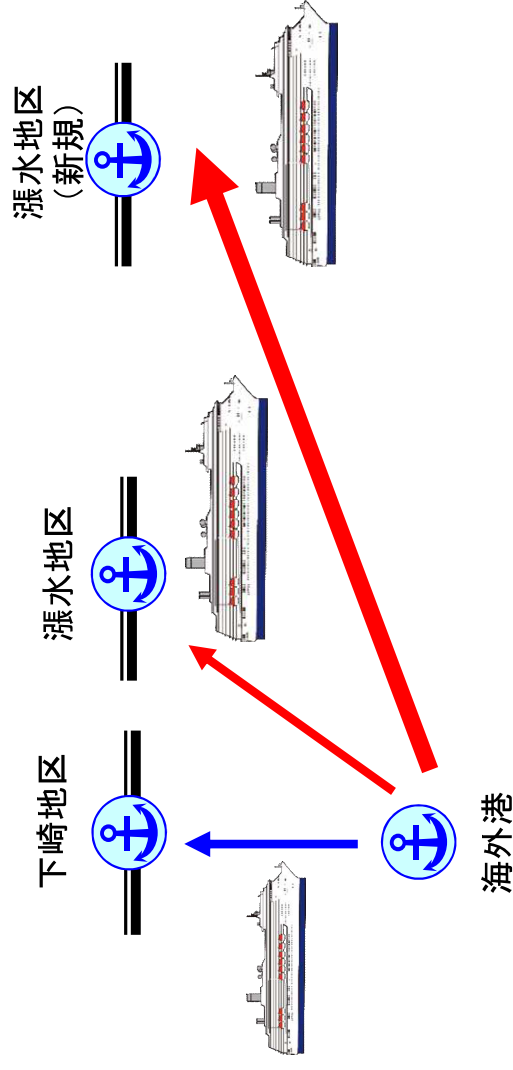
外航クルーズ船の入港による国際観光純収入の増加便益 842億円

新たなクルーズ需要への対応が可能となることにより、国際観光純収入が増加する。

Without時



With時



費用便益分析の結果（現在価値化後）



	項目	評価期間内 便益・費用(億円)
便益	外航クルーズ船の入港による国際観光純収入の増加便益	842
	残存価値	1
	小計	842
費用	事業費・再投資費	82
	維持管理費	8
	小計	90

費用便益比(B/C)	9.3
純現在価値(B-C)	752億円
経済的內部収益率(EIRR)	37.4%

注：端数処理のため、合計は必ずしも一致しない。

事業効果（貨幣換算が困難な効果等）

【①雇用の創出、地域活力の向上、国際交流の促進】

クルーズ船の寄港隻数が増加やそれに伴う外国人一時上陸者の増加により、地域の観光関連産業の収益が増大し、新たな雇用が創出され、地域活力の向上が見込まれる。また、外国人との交流機会が増加することで、国際交流の促進ひいては我が国に対する国際的な好感度の向上にも繋がることが期待される。

【②港を通じた地域の振興】

クルーズ船の寄港隻数の増加やそれに伴う外国人一時上陸者の増加を契機として、地域住民等による、港の景観向上や地域づくりの取組みなどが促進され、港を通じた地域の振興が期待される。

【③訪日クルーズ旅行の魅力の向上】

平良港近傍の豊富な観光地等を巡るクルーズ観光の拠点となるターミナルが形成されることで、我が国に寄港するクルーズツアーの選択肢が増加し、我が国のクルーズ旅行全体の魅力向上が見込まれる。

【④観光地としての魅力の向上】

クルーズ船の一時上陸者や見学者が増加することで、観光地としての地域の魅力や知名度の向上が見込まれる。

【⑤旅客の安全確保】

貨物船ターミナルにおけるクルーズ船受け入れ時に発生していた貨物の一時的な移動や旅客の安全対策に係る費用が解消される。